

科目名 Subject Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
生活支援技術Ⅱ Independent Living Skill Ⅱ		1年	前期1/2	時間割参照
単位数	授業の形態		授業の性格	
1単位	演習		選択 (介護福祉士養成課程必修)	
当該科目の理解を促すために受講することが望まれる科目				
特記なし				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
特記なし				
担当に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー	電話番号・メールアドレス	
新井文子	福祉棟2階	初回授業にて説明	授業中に指示します	
授業の概要				
日常生活の基本行動となる移動の意義や目的、利用者のアセスメントについて学習し、移動が障害されることによる影響を理解する。そして、利用者の状況に応じた、安全での確な移乗・移動技術を習得する。また、適切な福祉用具の活用により、生活領域の拡大および自立に向けた介護について考えていく。				
授業の到達目標				
①日常生活における移動の意義を理解するとともに、適切なアセスメントの捉え方を理解できるようにする。 ②利用者の状況に応じた安全な移乗・移動技術を習得できるようにする。 ③自立支援に向けて、利用者の状況に応じた福祉用具を選択・活用できるようにする。				
授業の方法				
演習科目であるが講義も併用する。介護者役と利用者役を通して、具体的かつ実践的な技術を演習する。				
学習の成果				
①日常生活における移動の重要性を理解することができる。 ②移動に関する基本的な技術を習得することができる。 ③福祉用具の適切な活用により、日常生活の拡大を図ることができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス(シラバスにそって)、日常生活における移乗・移動の意義と目的			
第2回目	安全での確な移動・移乗介助の技法① 基本体位、良肢位 【演習】			
第3回目	安全での確な移動・移乗介助の技法② 安楽な体位 【演習】(レポート1)			
第4回目	安全での確な移動・移乗介助の技法③ 上方移動と水平移動、体位変換、端座位 その1 【演習】			
第5回目	安全での確な移動・移乗介助の技法④ 上方移動と水平移動、体位変換、端座位 その2 【演習】			
第6回目	安全での確な移動・移乗介助の技法⑤ 端座位、移乗(車椅子、ストレッチャー) その1 【演習】			

第7回目	安全での確な移動・移乗介助の技法⑥ 端座位、移乗(車椅子、ストレッチャー) その2 【演習】		
第8回目	安全での確な移動・移乗介助の技法⑦ 歩行補助具を使用した歩行介助の実際(杖、歩行器等) 【演習】		
第9回目	安全での確な移動・移乗介助の技法⑧ 片麻痺体験、車椅子 その1 【演習】		
第10回目	安全での確な移動・移乗介助の技法⑨ 片麻痺体験、車椅子 その2 【演習】(レポート2)		
第11回目	移乗・移動の技術に関するまとめ 【演習】		
第12回目	移乗・移動に関する生活支援技術習得の確認 【演習】(実技試験含む)		
第13回目	褥瘡とその予防 同一体位による弊害、褥瘡の原因と予防		
第14回目	移乗・移動に関するアセスメント (筆記試験含む)		
第15回目	まとめ 多職種との連携、福祉用具の活用、生活領域を拡大するための工夫		
成績評価の方法と基準			
	評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度		20%	配布資料を活用し自主的にメモしている。演習時は身支度を整え、積極的・自主的に参加している。指導を受け入れ技術を習得しようと努力する姿勢がみられる。
レポート		20%	①安楽な体位；資料をもとに適切にまとめている。 ②振り返り；演習内容を踏まえ、利用者役・介護者役両面からの学びを記述している。
調査報告書			
小テスト			
中間・学期末試験		60%	実技試験20%、筆記試験(選択や記述式) 40%の割合で評価する。
発表内容(態度含む)			
その他			
教科書と参考図書			
①教科書 新・介護福祉士養成講座7 「生活支援技術Ⅱ」 中央法規出版 ②生活支援技術の手引き			
履修上の心得・ルール			
講義・演習とも積極的に取り組み、演習時は身だしなみを整えること。また、自己練習をし、技術の向上に努めること。実技試験は他科目の実技試験との兼ね合いから、日時を変更する場合もある。クォーター科目の後半であり、「ここからだのしくみⅠ」終了後から始まる。			